



区報さえき11.1号

P7・P8編集・佐伯区役所区政調整課
〒731-5195 佐伯区海老園二丁目5番28号
☎943-9703 FAX 923-5098

ささえあい えがおあふれる きぼうのまち

佐伯区だより



広島市佐伯区役所

検索

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/saekiku/>

佐伯区の人口 / 140,427人 (544人増)
佐伯区の世帯数 / 62,926世帯 (862世帯増)
令和2年9月末現在 (前年同月比)

秋 深まるこれからの 佐伯区お出かけ情報

アートフェスタ 佐伯区2020

11月30日(月)まで「アートフェスタ佐伯区2020」を開催し、区内を芸術色に染めます。今年、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、「新しい生活様式」などを踏まえた企画をお届けします。
園同委員会事務局 (地域起こし推進課内 ☎943-9705、☎943-9718)

募集

未来に残したい佐伯区の地域資源 イラスト・写真募集

回 11月30日(月)まで
因 佐伯区誕生35周年と、旧湯来町の広島市との合併・佐伯区への編入15周年を記念して、イラスト・写真を募集します。

テーマは「未来に残したい佐伯区の地域資源」です。
最優秀賞作品は、区内および周辺地域の郵便局で販売される記念切手シートの図柄として採用する予定です。奮ってご応募ください

「アートフェスタ佐伯区2019」の
「佐伯区の魅力再・彩発見イラスト」大賞作品 ▶



展示

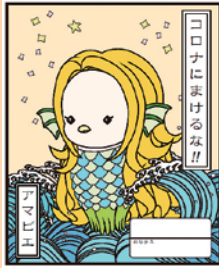
「アマビエ様」のめりえ大会

回 11月12日(木)～15日(日)、17日(火)

場 区民文化センター

因 新型コロナウイルス感染症の終息を願い、区内の4～6歳の幼児などが制作した、疫病退散にご利益があると言われる妖怪「アマビエ様」の塗り絵を展示します

回 同館 (☎921-7550、☎921-9898) 休 月曜日



広島市植物公園写生大会 受賞作品展示

回 11月5日(木)～30日(月)

場 五日市駅南北自由通路

因 11月1日(日)に開催する植物公園写生大会の受賞作品を展示します



詳しくは、区役所、公民館などで配付するチラシで。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、急きょ開催中止となる場合があります。あらかじめご了承ください

音楽イベント

※一部の紹介です

かがやき大学 「名曲ピアノコンサート」

回 11月7日(土)15:30～16:30(予定)

場 藤の木公民館

因 今年生誕250周年の、ベートーベンの6大ピアノソナタを中心とした、名曲の数々をお届けします。出演は、江口園子さん(右写真)

回 イベント当日、同館へ。先着 30人

回 同館 (☎927-2496、☎927-2496) 休 火曜日



ピースコンサート 朗読・独唱、クラリネット、ピアノのための音楽物語「蜘蛛の糸」

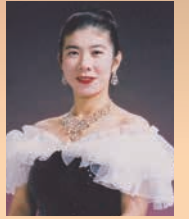
回 11月14日(土)14:00～15:00(予定)

場 五日市公民館

因 佐伯区在住のソプラノ歌手、隅川幸江さん(右写真)によるコンサートです。クラリネット、ピアノの演奏とともに、ドラマチックな世界を展開します

回 事前に電話か来館で同館へ。先着 100人

回 同館 (☎922-8333、☎922-8334) 休 火曜日



情熱のアルゼンチンタンゴコンサート

回 11月20日(金)13:30～15:00(予定)

場 皆賀公民館

因 心に響く魅惑のタンゴをお届けします。出演は、トリオグループのロス・チフレードス(右写真)

回 事前に電話か来館で同館へ。先着 30人

回 同館 (☎922-6656、☎922-6653) 休 火曜日



秋の湯来もまた、良きもので。

豊かな自然が広がり、四季折々の楽しみが味わえる湯来地区。今回は、秋の湯来の魅力を紹介します。

昭和12年に広島県名勝の指定を受けた石ヶ谷峡は、数多くの小滝や、南無阿彌陀仏と彫り込まれた「名号岩」をはじめとした奇岩が見られる美しい渓谷です。秋には色鮮やかな紅葉に囲まれた景色の中を歩くことができ、ハイキングにぴったりの場所です。

また、朝晩が寒くなるこれからの季節は、単純弱放射能温泉の「湯来温泉」と「湯の山温泉」に入浴して、ゆっくりと温まるのがお勧めです。温泉効果で湯上がり後も体がぽかぽかし、お肌はしっとり、つるつるになります。

秋の湯来を満喫し、身も心もリフレッシュしませんか。

園地域起こし推進課 (☎943-9705、☎943-9718)



石ヶ谷峡の紅葉

湯の山温泉の打たせ湯

湯来ロッジの露天風呂

植物公園バックヤードだより④ この秋、珍しい「中国菊」鑑賞はいかがですか？

菊は私たちにとって最もポピュラーな花の一つですが、美しく育てるには工夫と適切な管理が必要な、奥の深い花でもあります。

秋になると日本各地で菊の展示会が開催されます。出品者は、花の美しさはもちろん、草丈や全体のバランス、葉の傷に至るまで配慮して栽培しなければなりません。開花を迎え

た時の株全体の姿が、それまでの管理を物語るというわけです。美しく仕立てられた菊は、「生きた美術品」とも言えるでしょう。

植物公園でも、毎年秋に「キク展」を開催しています。当園の「キク展」を特徴づけているのは、国内でも当園以外ではほとんど見ることのできない「中国菊」です。中国菊には暗赤色や緑

がかったもの、花の中心と外側で色が違うものなど独特の花色があります。これらの株は、市の友好都市・中国の重慶市から寄贈されたものです。中国からやってきた菊を眺め、秋風に吹かれながら日中友好に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

園植物公園 (☎922-3600、☎923-6100)



色とりどりの中国菊